

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-1)

[問題1] 災害拠点病院について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 広域災害医療に対応する。
2. 災害発生時に指定される。
3. 医療救護班の派遣機能を持つ。
4. 免震構造であることが指定要件である。
5. 救急救命士の配置が義務付けられている。

[問題2] ハーシィP.のSL理論(状況対応理論)において、リーダーの支援の下でグループ討議を経て方針を決定するリーダーシップスタイルはどれか。

1. 委任的リーダーシップ
2. 参加的リーダーシップ
3. 教示的リーダーシップ
4. 説得的リーダーシップ

[問題3] 医療機関における麻薬の取り扱いについて正しいのはどれか。

1. 麻薬と毒薬は一緒に保管する。
2. 麻薬注射液は複数の患者に分割して用いる。
3. 使用して残った麻薬注射液は病棟で廃棄する。
4. 麻薬注射液の使用後のアンプルは麻薬管理責任者に返却する。

[問題4] ムーア Moore, F. D. が提唱した外科的侵襲を受けた患者の生体反応で正しいのはどれか。

1. 傷害期には尿量が増加する。
2. 筋力回復期には蛋白の分解が進む。
3. 脂肪蓄積期には活動性が低下する。
4. 転換期には水・電解質平衡が正常化していく。

[問題5] クリニカルパスについて正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 在宅療養には適用できない。
2. 医療者と患者が治療計画を共有できる。
3. バリエーション発生の判断は退院日に行う。
4. 多職種間のコミュニケーションが不要になる。
5. 一定の質を保った治療と看護ケアの提供につながる。

[問題6] 看護におけるクリニカルラダーについて正しいのはどれか。

1. 病院に導入が義務付けられている。
2. ワーク・ライフ・バランスを目指すものである。
3. 臨床実践に必要な能力が段階的に表現されている。
4. 全国の病院で共通のクリニカルラダーが使用されている。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-2)

[問題7] 思春期以降に罹患すると男性不妊の原因となる可能性があるのはどれか。

1. 髄膜炎
2. 副鼻腔炎
3. クロウン病
4. 流行性耳下腺炎

[問題8] 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉に基づく五類感染症はどれか。2つ選べ。

1. 梅毒
2. 日本脳炎
3. つつが虫病
4. 腸管出血性大腸菌感染症
5. 後天性免疫不全症候群 (AIDS)

次の文を読み [問題9] [問題10] に答えよ。

Aさん(37歳、女性、看護師)は、1人暮らし。11月に小児科外来から循環器病棟へ異動となった。新しい人間関係と慣れない業務内容、勤務体制で帰宅後も緊張が取れず、眠れない日が続いていた。異動から3週目の朝、病院のエレベーターに乗ると、息苦しさ、動悸からパニック発作を起こした。その後も不眠とパニック発作が出現したため、異動から2か月後、精神科クリニックを受診し、パニック障害と診断された。主治医からは、短時間型の睡眠薬と選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)が処方された。また、職場の協力を得て仕事量の調整をしてもらうことになった。受診から5日後、Aさんから「昨日の朝から気分が悪くなり、嘔吐をするようになった」と電話があった。

[問題9] 受診から5日後のAさんの状況に対するアセスメントで適切なのはどれか。

1. ストレスの増大
2. うつ症状の悪化
3. 睡眠薬の持ち越し効果
4. SSRIの副作用(有害事象)

[問題10] 受診から1か月後、Aさんは病院のエレベーターの中でパニック発作を再び起こした。その時は、息が止まってしまうように感じた。それ以来、エレベーターを見ると、また同じようになってしまいかもしれないと思うようになり、怖くて乗れなくなり、仕事にも支障が出るようになった。

Aさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. ロールプレイを通じて社会生活技能を訓練する。
2. 抗うつ薬の効果についての正しい知識を教育する。
3. 同じ症状を持つ人々との話し合いを通じて症状の軽減を図る。
4. 「エレベーターの中で息が止まる」という認知による感情・行動を修正する。

[問題11] 厚生労働省「人口動態統計」による令和3年のわが国の人口動態事象で正しいのはどれか。

1. 合計特殊出生率は1.33である。
2. 婚姻数は前年よりも減少し、離婚数は前年よりも増加している。
3. 出生体重が2.5kg未満の低体重児の割合は、男児よりも女児に多い。
4. 母の年齢(5歳階級)別にみた出生率では30~34歳が最も高く、次いで35~39歳である。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-3)

[問題 12] 次の母子保健事業のうち、根拠法令が母子保健法でないのはどれか。2つ選べ。

1. 養育支援訪問
2. 妊産婦健康診査
3. 3歳児健康診査
4. 未熟児訪問指導
5. 乳児家庭全戸訪問

[問題 13] 厚生労働省「人口動態統計」による令和4年の性別にみた死因順位別死亡数・死亡率(人口10万対)で正しいのはどれか。

1. 男女ともに死因の第2位は心疾患である。
2. 悪性新生物(腫瘍)による死亡は男性よりも女性に多い。
3. 総数で見ると自殺は死因順位の上位10位までに含まれる。
4. 総数で見ると死因順位は老衰が脳血管疾患よりも上位である。

[問題 14] 子育て世代包括支援センターについて正しいのはどれか。

1. 設置は都道府県の努力義務である。
2. 支援の対象者は妊産婦および乳幼児ならびにその保護者に限定される。
3. 実施主体は市町村であるが、市町村が認めた者へ委託等を行うことができる。
4. 担当職員に保健師、助産師、看護師のいずれかを配置できない場合は、設置できない。

[問題 15] 周産期死亡について正しいのはどれか。

1. 妊娠満12週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたものをいう。
2. 妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたものをいう。
3. 妊娠満12週以後の死産と生後4週未満の新生児死亡を合わせたものをいう。
4. 妊娠満22週以後の死産と生後4週未満の新生児死亡を合わせたものをいう。

[問題 16] 人工妊娠中絶について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠12週での人工妊娠中絶では死産届は不要である。
2. 近年日本における人工妊娠中絶件数は緩やかに増加している。
3. 50歳以上では他の年齢階級よりも中期中絶をする者の割合が多い。
4. 妊娠中絶が選択される具体的な理由は、未婚や経済的な理由が上位2つの理由である。
5. 2020年度の人工妊娠中絶実施率(女子人口千対)の都道府県比較では、最上位は東京都である。

[問題 17] 加齢に伴うエストロゲンの減少が発症に関連している疾患はどれか。2つ選べ。

1. 白内障
2. 直腸癌
3. 子宮頸癌
4. 骨粗鬆症
5. 脂質異常症

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-4)

[問題 18] A さん (50 歳、女性) は、急に体が熱くなったり汗をかいたりするようになり、夜は眠れず疲れやすさを感じるようになった。月経はこの 1 年間で 2 回あった。

A さんのホルモンで上昇していると推察されるのはどれか。2 つ選べ。

1. エストロゲン
2. プロラクチン
3. プロゲステロン
4. 黄体形成ホルモン (LH)
5. 卵胞刺激ホルモン (FSH)

[問題 19] 月経異常について誤っているのはどれか。

1. 体脂肪率が高くなるほど月経異常の頻度が増す傾向にある。
2. 満 18 歳を過ぎても初経が起こらないものを原発性無月経という。
3. それまで順調であった月経が 3 か月以上停止したものを続発性無月経という。
4. 月経周期が 24 日以内に短縮し、月経の回数が増加するものを頻発月経という。

[問題 20] 日本性教育協会編：「若者の性」白書 第 8 回青少年の性行動全国調査報告によると、男子高校生が避妊をしない理由で最も多いのはどれか。

1. めんどくさい
2. 準備していない
3. たぶん妊娠しない
4. 装着方法がわからない

[問題 21] 着床時の受精卵の状態はどれか。

1. 4 細胞期
2. 8 細胞期
3. 桑実胚
4. 胚盤胞

[問題 22] 病原体と感染経路の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 風疹ウイルス・・・上行性感染
2. トキソプラズマ・・・産道感染
3. サイトメガロウイルス・・・経胎盤感染
4. 水痘・帯状疱疹ウイルス・・・母乳感染

[問題 23] 胎児の肺成熟度の検査でないのはどれか。

1. L/S 比測定
2. アプト試験
3. シェイクテスト
4. マイクロバブルテスト

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-5)

[問題 24] 分娩の前兆でないのはどれか。

1. 胎動の減弱
2. 胃の圧迫感
3. 恥骨の痛み
4. 帯下の増加

[問題 25] 妊娠糖尿病と診断されるのはどれか。

1. 糖尿病と診断されていない女性で、HbA1c 6.8%
2. 糖尿病と診断されていない女性で、空腹時血糖 128mg/dℓ
3. 糖尿病と診断されていない女性で、妊娠中に 75gOGTT で 1 時間値 160mg/dℓ
4. 糖尿病と診断されていない女性で、妊娠中に 75gOGTT で 2 時間値 156mg/dℓ

[問題 26] 過期産児に起こりやすい合併症はどれか。

1. 胎便吸引症候群
2. 子宮内発育遅延
3. 呼吸窮迫症候群
4. 脳室周囲白質軟化症

[問題 27] 糖代謝異常合併妊娠の治療について誤っているのはどれか。

1. 厳格に血糖コントロールを行う。
2. 頻回の血糖自己測定が望ましい。
3. 血糖目標値を達成できない場合にはインスリン療法を行う。
4. 1 日の摂取総エネルギー量 = 現在の妊婦の体重(kg) × 30kcal + 付加量

[問題 28] 早産のリスク因子でないのはどれか。

1. やせ
2. 多胎妊娠
3. 羊水過少症
4. 頸管無力症

[問題 29] 無痛分娩について誤っているのはどれか。2つ選べ。

1. 陣痛促進剤の過剰投与につながる可能性がある。
2. 会陰切開や器械による分娩を行う可能性が高まる。
3. 母体への疲労感が少ないため出産後の回復が比較的早い。
4. 分娩における主体性を産婦がもちやすく出産した実感を得やすい。
5. 下肢に運動制限を生じさせることなく鎮痛効果をもたらすことができる。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-6)

[問題30] 次のうち異常所見はどれか。

1. 臍帯の長さ 72 cm
2. 最大羊水深度(MVP) 7 cm
3. 出生直後の臍帯動脈血 pH 7.25
4. 子宮口 7~8 cm開大時の陣痛周期 2分30秒

[問題31] 産科DICの治療・管理として原則使用しないのはどれか。

1. ヘパリン
2. トラネキサム酸
3. 新鮮凍結血漿(FFP)
4. フィブリノゲン製剤

[問題32] 正常な胎児の分娩機転について正しいのはどれか。

1. 後頭部が先進する。
2. 出口部では肩甲は骨盤横径に一致する。
3. 分娩開始時、胎児の背中は母体の背側にある。
4. 児頭が下降するにつれて小泉門が母体の側方から前方に向かうのは第3回旋である。

[問題33] 破水の有無を確認する検査として誤っているのはどれか。

1. ニトラジン法
2. α -フェトプロテイン
3. 顆粒球エラスターゼ活性
4. がん胎児性フィブロネクチン法

[問題34] 次の文で正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

1. ザイツ法(+)の場合、児頭骨盤不均衡(CPD)を考える。
2. 肩甲難産ではクリステル胎児圧出法を行う。
3. 産科的真結合線が10.5 cmであれば狭骨盤と診断される。
4. 内診時に先進する小泉門を後方に触れたため後方後頭位を考える。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-7)

次の文を読み [問題 35] [問題 36] に答えよ。

37歳の1回経産婦。妊娠39週0日、午前6時40分、15分間欠の規則的な子宮収縮と痛みで入院した。入院時の内診所見は頸管開大度3cm、頸管展退度40%、下降度-2、頸部の硬度は中、位置は後方であった。午前8時30分に10分間欠となった。その後順調に経過し、午前11時45分に子宮口全開大、11時55分に3,045gの女児を出産した。午後0時10分に胎盤を娩出した。その後、分娩台で初回授乳を行い、午後2時15分、子宮底臍下3横指、硬度良好、車椅子で帰室した。

[問題 35] 入院時のビショップスコアは何点か。

1. 5点
2. 6点
3. 7点
4. 8点

[問題 36] 分娩所要時間はどれか。

1. 3時間25分
2. 3時間40分
3. 5時間15分
4. 5時間30分

[問題 37] 乳汁分泌に関与するホルモンの名称を①・②に入れなさい。

	(①)	(②)
産生	下垂体前葉	視床下部
分泌	下垂体前葉	下垂体後葉
作用部位	乳腺細胞	腺房の平滑筋
作用	乳汁産生 (催乳)	乳管内に乳汁放出 (射乳)

[問題 38] 初乳の特徴はどれか。2つ選べ。

1. 脂肪が多い。
2. 乳糖が多い。
3. 蛋白質が多い。
4. エネルギーが高い。
5. 児の免疫機能を補う。

[問題 39] 子宮復古不全の治療について誤っているのはどれか。

1. 子宮収縮薬を用いる。
2. 感染徴候を認める場合は抗菌薬を投与する。
3. 一般療法 (授乳中止・子宮底輪状マッサージなど) を行う。
4. 胎盤遺残がある場合は可能であれば子宮内容除去術を行う。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-8)

[問題40] 産褥熱の定義について正しいのはどれか。

1. 分娩12時間後から産褥10日目の間に38℃以上の発熱を2日以上きたすものをいう。
2. 分娩12時間後から産褥7日目の間に38℃以上の発熱を3日以上きたすものをいう。
3. 分娩24時間後から産褥10日目の間に38℃以上の発熱を2日以上きたすものをいう。
4. 分娩24時間後から産褥7日目の間に38℃以上の発熱を3日以上きたすものをいう。

[問題41] 正常分娩をした初産婦。産褥5日の子宮復古状態で正常なのはどれか。

1. 後陣痛がある。
2. 血性悪露がみられる。
3. 子宮の硬さがゴムまり状である。
4. 子宮底の高さが臍と恥骨の中央である。

[問題42] 在胎30週2日、1,580gで出生した児。出生後、NICUに搬入された。搬入時の体温36.6℃、呼吸数48/分、心拍数118/分。先天的な異常は認めず、保育器に收容された。

ディベロップメンタルケアを中心とした看護が行われることとなった。正しいのはどれか。

1. モニター音を下げる。
2. 照明を明るくしておく。
3. 母親の接触は最小限にする。
4. 決まった時間に清潔ケアを行う。

[問題43] ()の中に入る適切な語句を下記の語群より選択し、アルファベットで記入しなさい。

出生直後の新生児の酸素飽和度を測定する際には、パルスオキシメータのプロープを(①)に装着し、(②)の影響を受けない SpO_2 値を把握する。

語群 A:右手 B:右足 C:左手 D:左足 E:ボタロー管 F:アランチウス管 G:卵円孔
--

次の文を読み [問題44] [問題45] に答えよ。

妊娠39週。体重3,100gで正常に出生した生後12時間の新生児。体温36.8℃、心拍数142/分、呼吸数62/分。呼吸はやや不規則、肺雑音なし。顔面に点状出血が少量見られる。オムツにはレンガ色のしみがみられる。

[問題44] 児のアセスメントで最も注目すべき情報はどれか。

1. 呼吸数
2. 顔面の点状出血
3. 呼吸の不規則性
4. オムツのレンガ色のしみ

[問題45] 日齢3日。体重2,850g。体温37.4℃、心拍数132/分、呼吸数50/分。血性ビリルビン値7mg/dl。排尿4回/日、排便1回/日(胎便)。母親は「昼も夜も2時間おきに泣くのでそのたびに授乳しています」と話した。アセスメントとして正しいのはどれか。

1. 多呼吸である
2. 高ビリルビン血症である
3. 体重減少率は生理的範囲内である。
4. 排尿・排便の回数から、母乳栄養不足の徴候はない。

令和6年度 助産学科看護学一般試験問題 (9-9)

[問題 46] 新生児一過性多呼吸について誤っているのはどれか。

1. 特に過期産児に多い
2. 新生児の呼吸障害のうち最も頻度が高い
3. 陣痛発来前の帝王切開で生まれた児に多い
4. 多くの場合、酸素投与のみで2~3日以内に自然軽快する

[問題 47] 新生児蘇生のアルゴリズムにおいて、出生直後のチェックポイントを3つ選べ。

- ① 低体温 ② 弱い呼吸・啼泣 ③ 筋緊張低下 ④ 心拍数低下 ⑤ チアノーゼ ⑥ 早産児

[問題 48] [問題 47] のチェックポイントをすべて認めない場合のルーチンケアはどれか。

1. 保温・気道開通・吸引
2. 保温・気道開通・酸素投与
3. 保温・気道開通・皮膚乾燥
4. 保温・気道開通・ SpO_2 モニター装着

[問題 49] ピアジェの認知発達理論の時期順で正しいのはどれか。

1. 前操作期 — 感覚運動期 — 具体的操作期 — 形式的操作期
2. 感覚運動期 — 前操作期 — 具体的操作期 — 形式的操作期
3. 前操作期 — 具体的操作期 — 形式的操作期 — 感覚運動期
4. 形式的操作期 — 前操作期 — 感覚運動期 — 具体的操作期

[問題 50] 麻疹について誤っているのはどれか。

1. 潜伏期は2~3日である。
2. 感染力はカタル期に最も強い。
3. カタル期・発疹期・回復期の3期に分けられる。
4. 感染経路は麻疹ウイルスの飛沫感染・空気感染である。